

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人松友会	代表者	理事長 上田慎子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームを始め、デイサービス、ショートステイ、認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護、ケアハウス、グループホーム、居宅介護支援、地域包括支援センターなどの事業を市内に展開している。ご利用者がどのような状態であっても法人全体でその人の生活を支援することができるように連携をとっている。 ・さくら草は認知症対応型共同生活介護を併設しており、認知症状によりご自宅での生活が困難となった場合、通い入れた場所に入居ができる体制を整えている。
事業所名	ピースフルライフ さくら草	管理者	塩澤 修		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	0人	人	1人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・職種間の情報共有を行い、知識や経験を活かした取り組みを実施していく。 ・事業所内の勉強会、研修の実施、参加を増やし質の向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の職種間の連携をはかり、ご利用者への処遇改善につなげることができた。 ・研修（勉強）会の頻度は維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとされている。 ・パートの日数によっては「わからない」という回答もあるのだろう。 ・「評価」をするのは非常に難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の内容を計画化し、事業所の課題に適したものを行い、質の向上につなげる。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が相談、来所しやすいよう、道路側にわかりやすく看板を設置する	<ul style="list-style-type: none"> ・看板を設置し、道路側にもわかりやすくしたが、相談や来所件数との関係性は不明確。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設という雰囲気ではなく家庭的でいいなと思った。 ・家族のように接してくれて居心地がよい。 ・他の事業所と比べたことがないのでわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を保ち、居心地のよい事業所作りの継続。 ・来所相談者にも「きれいですね」と言ってもらえるよう環境整備。
C. 事業所と地域のかかわり	チラシを作成しポスティングをすることで、事業所の場所や支援内容を地域の方が知る機会を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方にポスティングを行うことができていない。 ・併設するグループホームと自治会との関わりにより地域との関わりを保つことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車両を見ることで広告塔になっている。 ・何かの時には「さくら草」と思えるように感じる。身近なところだと思える。 ・小中学校との関わりがあるとよいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成、ポスティングの実行により、地域の身近な事業所であることをお知らせする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	関連機関との情報共有、相談、連携を続ける。ご利用者宅への訪問を継続し、ご家族の安心、安定を継続していく	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携は必要内容に応じて実施することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」を全域となると、住まいごとの地域まで把握や出向くことは難しいのでは。 ・今まで事業所がしてきた通りにしていれば「できている」のではないか、続けていくことが大切。 ・「その人がどうしているか」を地域の人が把握しあえるようにできるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の近隣の方との関係性を「送迎時」や「訪問時」を活用して深めることで、ご利用者の暮らしが継続できるようにする。 ・ご利用者の周囲に有効な社会資源があるか、地域包括支援センターや民生委員との日常的な連携を継続する。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の意見を事業所内で検討し、地域のニーズを活かした取組みを検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに対して活かした取組みの検討に至らず。 ・それぞれの立場からの意見交換ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとそんなに意見があるわけではない。 ・職員の方が「できている」と答えているので、できているのだと思う。 ・ざっくばらんに話せる場なのでありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き意見交換、情報共有の場として運営推進会議を実施する。必要な場合には地域に出向いて支援ができる体制を整えておく。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議の場で備品の設営や操作を合同に行う。防災訓練への呼びかけを行い、参加の協力をいただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で備品の説明はしたが、操作説明や参加の呼びかけができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練と運営推進会議の時期が合うとよい。また事前にお知らせをいただけるとよい。 ・消防署に1対1の方法を聞いてみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の日を定め5月と10月の第3木曜日に実施する。実施前の運営推進会議にはお知らせを行う。 ・消防署に防災訓練の参加協力依頼を行い、より実践的な避難対策を学ぶ。

